

教案作りに苦勞

意見交換参加や授業見学

木村 理沙

事前準備として、教材研作り、教案作成の下準備



日本語教育実習Bの授業で湖南大学での実習の... 6・7月には、各課ごとの教案を作成し、演習形式で検討しながら授業に使用... 最終準備として夏休み中にも授業を行いました。

日本語教師を目指す文学部の専攻生4人

韓国・湖南大で日本語教える

文学部は韓国光州市の湖南大学校人文社会大学(日本語訳は湖南大学人文社会学部)と、組織間交流協定を結んでいる。

本語学専攻3年次生4人(日本語教育実習B履修)が湖南大学で「外国語としての日本語」を教える実習を行った。参加した2人に実習の準備も含めた体験記を寄せてもらった。

レベルの高さに驚く

じっくり教える大切さ実感

碓山 英子

湖南大学では、1日目



業を2つ、2日目は日本語初級会話の授業を5つ、それぞれ見学しました。... 見学した授業に共通して伝わってきました。

商学部・太田 和博ゼミ

躍動する都市・上海で夏合宿



可果美(杭州カゴメ)工場棟入り口にて。左端が荻野さん、前列右から2人目が長田さん

05年に中国進出

「可果美工場」見学

9月16日・杭州

合宿2日目、私たちはの工場を見学するため上海から新幹線で杭州のある。カゴメは、中国国内で最も市場性の高い上海を向かった。カゴメが2005年、伊藤忠商事と中国最大の食品会社である康師傅グループと共同出資で設立した製造販売会社「可果美食品公司」化を目指している。

「カゴメ」設立の現地会社見学

「健康への関心」に期待

上海は「昇龍」とも形容される中国の経済成長を体現している。しかも、単に経済のみでなく、NHK土曜ドラマ「上海タイフーン」や日本経済新聞朝刊連載小説「甘苦上海」が日本人女性を主人公にしているように、いま最先端の、私たちにも身近な国際都市となっている。

商学部・太田和博ゼミは「交通と観光の研究」がテーマ。ゼミ生の発案によって今年度の夏合宿の行き先は、エネルギーとカオスが交錯する上海などを選んだ。9月15日から5日間、ゼミ生13人たちが感じ、学んだことをレポートした。(太田和博)

静寂の中に迫力

世界遺産の庭園

9月17日・蘇州

私たちは、可果美の工年以上前の明代の邸宅を場からチャーターバスで改修した建物が使われて蘇州に向かい1泊した。いたが、そのサービスは一流ホテル級であった。

観光のひとつの重要な要素はホスピタリティである。ゼミで学んだが、それを実感した。

蘇州は水郷の街であり、東洋のベニスとも呼ばれている。私たちは手づくりのガイドブックで「蘇州ウォーカー」で世界遺産の庭園を中心に見学した。日本庭園とは様式が違い、静寂の中にも迫力があつた。また、観光地だが路地をひとつ入ると、

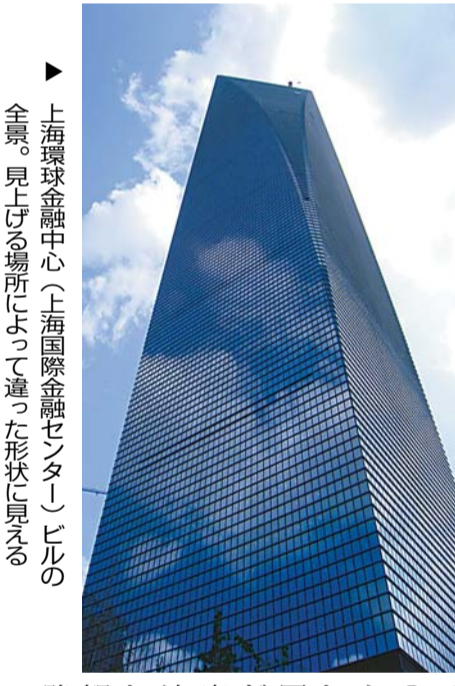
「上海ヒルズ」の眺望

9月18日・上海

8月30日にオープンしたばかりの上海ヒルズ(上海国際金融センター)では、森ビルの松橋龍生さんに森ビルの都市開発の方針や上海ヒルズの戦略をわかりやすく説明していただいた。100階にある展望台は世界一の高さ(474m)で、東京タワー(高さ333m)、特別展望台(高さ250m)とはけた違いの眺望で圧巻だった。(卓歩・江口遼(以上3年次))

「ほかの参加者」

渡辺珠(3年次)、小林朋浩(4年次)、奥澤俊介(3年次)、村俊文さん、広報部課長・曾根智子さんには東京で事前にお話を伺う機会をいただき、現地見学の効果を高めることができました。また現地では、可果美食品会社の長田哲さん、荻野浩幸さんから工場のご説明があり、新幹線の切符やチャーターバスの手配などでも大変お世話になった。(奥澤俊介・3年次、小林朋浩・4年次)



上海環球金融中心(上海国際金融センター)ビル全景。見上げる場所によって違った形状に見える